

1 会派名
流政会

【出席議員】・坂巻儀一、森亮二、石原修治、笠原久恵、近藤美保、野田宏規、大塚洋一
・青野直（午後から）

2 期 日
平成30年5月8日（火）

3 視察先及び視察項目等

- (1) 地域支え合いの会「ふたば」
 - ・多世代交流について
 - ・運営上の課題
 - ・意見交換
- (2) 流山市保健センター
 - ・母子保健全件面談について
 - ・意見交換
- (3) ながれやま子育てコミュニティなこっこ
 - ・意見交換

4 所感等

- (1) 地域支え合いの会「ふたば」

●主な内容

・説明者：・代表（八木南団地自治会長） 青柳末善氏

■地域支え合いの会「ふたば」について

・地域支え合いの会「ふたば」の設立の経緯として、八木南団地自治会には約300世帯の方がいる。高齢化や孤独死の課題もあるなか、自治会で生活支援検討プロジェクトチームを立ち上げた。当初はニーズをアンケートで把握し、NPO法人「流山助け合いネット」の支援を受けていたが、だんだん需要が増加し、また、自治会だけでの運営が難しくなったので、自治会から切り離して、八木南団地自治会の福祉活動生活支援活動を基盤に地域支え合いの会として平成28年12月に「空き家」を活用した地域支え合いの会「ふたば」を開設し、「高齢者ふれあいの家」及び「ちょい困サービス等」を行っている。
・高齢者はもちろん多世代にわたり地域皆で支えあい、健康で笑顔で長生きできる地域づくりあたたかい人と人との繋がりを育てていける環境づくりを福祉・介護活動など中心に進めている。

■生活支援検討プロジェクトのアンケートについて

・平成25年5月20日に八木南団地自治会で実施。
・自治会員で、介護認定がなされていない高齢者及び身体不自由な会員に対し、生活援護システムを検討するプロジェクトチームを発足し、アンケートにより内容検討の参考にした。
・支援を受けたい項目（・外出支援（病院、・買物、・旅行や行楽への車の同行、・その他銀行などへの車の送迎）、・家事支援、・庭の手入れ、・対人支援（（車を使用しない）・散歩の付き添い、・病院の付き添い、・身体介護、・見守り、・安否確認、・話相手、・朗読、・子供の一時預かり、・子守り）、・ペットの世話、その他（各種手続き、・簡単な大工仕事、・照明器具取替え等簡単な修理、・ゴミやリサイクル出し、・粗大ごみの処理）
・要望内容は集約し検討資料とする。
・プロジェクトチームから諮問を得た内容を役員会で検討し、実施が決まった時点でNPO法人「流山助け合いネット」に八木南団地自治会は団体として加盟した。

■高齢者ふれあいの家「ふたば」について

・高齢者ふれあいの家「ふたば」とは、家にとじこもりがちな地域のおおむね65歳以上の高齢者が自由に集まり、①高齢者の健康、いきがい等に関する趣味活動又は教養講座等の開催による高齢者相互の交流、②高齢者と子ども等との世代間の交流などを行う施設
・利用時間 月・木曜日 午前10時から午後4時まで
・利用料金 1日200円（介護保険負担割合証提示者は100円）

- ・具体的に、100 歳体操や、ウォーキング、麻雀、手芸、子育て支援等を行っている。

■ちょい困サービス等について

- ・地域支え合いの会「ふたば」は住民主体型サービスを行っている。
- ・住民主体型サービスとは、利用者が可能な限り、要支援状態等の維持もしくは改善を図り、自立した日常生活を営むことができるよう支援を行う。利用者の心身機能の維持回復、生活機能の維持や向上を目指し、サービスを提供するもの。
- ・住民主体型サービス補助金とは、2025 年には住民の 4 人に 1 人は 65 歳以上となる超高齢化社会となる。今後、介護を必要とする人が増える一方、提供する人材の不足が予測されている。そこで、流山市では、高齢者のくらしを支える住民主体型サービスの普及を図るために、住民主体型サービスを実施する団体に対し、立ち上げに要する経費（準備金）と運営費の一部を補助するもの。補助金は各サービスの種類につき最長 3 年間である。
- ・内容は①ちょい困サービス（訪問型サービス B）、②ちょい通サービス（通所型サービス B）、③ちょい困サービス＋（訪問型サービス D）である。
- ・①の内容は、日常生活の困りごとの支援、主なサービス内容は、ごみ出し、掃除、庭掃除、障子張替、買い物、衣替え、室内片付け、ペットの世話、移動前後の乗降支援、利用料金は 800 円～/時間
- ・②の内容は、定期的な利用ができる通いの場づくり、軽体操、手芸、憩いの場所、利用料金は 100 円/回
- ・③の内容は、ちょい困サービスと一体的に行う移動前後の乗降支援、利用料金は 800 円～/時間

●所感

地域支え合いの会「ふたば」は、当初、自治会で取り組んでいた高齢者対策が自治会から切り離され、地域支え合いの会として独立した活動を行っており、その中には市の施策の「高齢者ふれあいの家」や住民主体型サービスの「ちょい困サービス等」を活用して地域に貢献している状況を視察させて頂いた。

八木南団地自治会ではいち早く高齢者の要望をアンケート等で聞き取り、それを把握して NPO 法人の力を借りながら高齢者対策を行っていたそうだが、需要が多くなったこと、受益者負担に立ちかえるということで、自治会の負担を軽くした取り組みであり、私が住む地域にも参考になると感じた。

支えているボランティアスタッフは 10 名程とのことでしたが、運営には苦勞をされているようで、初回は、スタッフに 1 人 3000 円の協力金も頂いたり、市の補助だけでは苦しいため、自主事業として、県の許可を得て 2 カ月に 1 回程度、柏の葉公園近隣でフリーマーケット（年間約 2 万円）を行ったり、イベントで焼きそばを販売して活動資金を補っていることも確認できた。

地域支え合いの会「ふたば」には毎日 15 人から 20 人がコンスタントに集まってくるそうで、地域の高齢者のニーズはとても高いことや、高齢者にとっては活力を貰える子どもとの交流もあり、今後、世代間の交流も期待できるとのことである。運営は苦しいが、自治会から自治会館の無料使用などの支援を受けたり多くの協力者もいるので、当分値上げはしないとのことであった。

現在は、地域に高齢者の居場所となる施設が少ない中、「空き家」を活用した今回の事例は、今後、各地に広がると良いと考える。地域支え合いの会「ふたば」としても、今後、八木南団地自治会だけでなく、地域の方々と支え合い活動の輪を広めて行きたいと意欲的なお話があり、私も、更に調査、研究を行いたいと思う。

（2）流山市保健センター

●主な内容

- ・説明者 健康福祉部 健康増進課長 伊原理香氏

■流山市妊娠・出産・子育てサポート事業

- ・母子保健型支援拠点 ～切れ目のない支援体制づくりを目指して～

★保健センターの業務及び保健師等の役割

- ・保健センターは、市民の心身の健康保持、増進に関わることが業務であり、主な業務として、1 歳 6 カ月健診、3 歳児健診、育児相談がある。
- ・保健師とは、看護師の資格を持ち、健康面での支援をする職業である。流山市では 4 地域担当制（19 名の保健師がいる）をとっている。
- ・保健師は対象者の家庭訪問し子どもの成長や発達の確認や育児相談や情報提供をする。平成 29 年度は 5038 件である。

・保健師が、現場で感じる流山市の子育てについての現状・課題の事例として、転入により身近に頼れる人や友人が少ない、子育てを自然に学ぶ機会がない人がある、出産後も24時間体制の育児がスタートするということで、家庭訪問をした時に育児不安や産後の気分の落ち込みをしている人が約2割いる。

・今までは出産後、課題が生じてから支援がスタートすることが多かったが、今後は妊娠期（母子手帳交付時）からの保健師等との出会いによる支援スタートの仕組みを構築する必要がある。

★妊娠期から始まる切れ目ない支援体制へ —まずは会って話を伺うことから—

- ・平成28年6月3日に母子健康法が改正され「虐待予防・早期発見」の必要性が明文化された。
- ・切れ目のない支援体制の第一歩は話をうかがうことからであり、虐待防止につながる。
- ・初期キャッチ・母子健康手帳時の面接がカギとなる。

★母子保健型で行う妊婦全件面接実施内容

- ・1人でも多くの妊婦と早期面接・早期支援を行い、安心して妊娠・出産できる流山市の体制づくりを目指す。
- ・妊娠届出（母子健康手帳交付）時に保健師と面接
- ・面接で得た情報より妊婦全員のアセスメント（事前の予測・評価）を行う。
- ・アセスメントで要支援とされた妊婦について支援計画票作成
- ・地区担当保健師、関連機関との情報共有やカンファレンス（協議）で支援等の方向性を確認
- ・支援計画票に基づき、支援の実施・関係機関との連絡調整
- ・継続的なモニタリング（支援が計画通りに行われているか等の確認・見直しと状況把握）を実施

★母子保健型支援拠点の開始 平成29年10月本格スタート

- ・保健センターの3階を母子保健型支援拠点として整備し、妊娠届出時の全件面接を目指したところ保健センターで母子健康手帳を受けの方が増加した。また、保健センター以外で交付された方には、手紙や電話で連絡し家庭訪問や面接をおこなったところ、平成28年度わずか3%だった面接率が平成29年度は33.2%になった。
- ・母子保健型支援拠点は、4地区担当保健師との連携した支援も行っている
- ・平成31年度からおおたかの森市民窓口センター内で、母子健康手帳交付及び面接実施に向けて市民課と調整中である。

★産後ケア事業について

☆目的

・産後直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行い、産後も安心して子育てが出来る支援体制を確保する。

☆対象者

・家族等から家事・育児等の援助が十分に受けられない産婦とその子で、以下のいずれかに当てはまる場合。

①産後心身の不調または育児不安等がある

②その他特に支援が必要と認められる

☆事業内容

「宿泊」又は「デイサービス」で母子に①母体ケア・乳児ケア、②育児に関する指導・カウンセリング、③心身のケア・育児サポートを実施する。

★子育て世代包括支援センターとは

☆目的

・主に妊産婦及び乳幼児の実情を把握し、妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要に応じた支援プランの策定や地域の保健医療又は福祉に関する機関との連絡調整を行い母子保健施策と子育て支援施策との一体的な提供を通じて妊産婦及び乳幼児の健康に関する包括的な支援を行うことにより、地域の特性に応じた妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供する体制を構築すること。

☆対象者

- ・主として妊産婦及び乳幼児並びにその保護者

☆実施場所

- ・母子保健分野と子育て支援分野の両面からの支援が一体的に提供できるようにするため両方が当事

者目線で支援機能を有する施設・場所で実施すること。

☆実施内容

- ①妊産婦及び乳幼児等の実情を把握すること
- ②妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要な情報提供・助言・保健指導を行うこと
- ③支援プランを策定すること
- ④保健医療又は福祉の関係機関との連絡調整を行うこと
- ⑤母子保健事業
- ⑥子育て支援事業

■まとめ

①切れ目のない母子保健・子育て支援の一步がスタートした。今後はさらに多くの妊婦の状況を把握し、妊娠早期から必要な人に切れ目のないきめ細かい支援を行うことが重要。

②「母子保健型支援拠点」の設置は妊娠初期からの保健師等との出会いにより妊娠や育児の「心配！」「困った！」の駆け込み寺的役割を担い育児支援につながる一助となる。

→今後はさらに、より多くの支援が必要な方を、個々の多様な状況に応じた手立てにより確実に救うこと！

→ひいては虐待防止！仕組みで救う！

→母子保健・育児支援・虐待防止の仕組み構築へ！！

●所感

平成 29 年 10 月に切れ目のない母子保健・子育て支援がスタートした。保健センターの駐車場も 100 台増設し、母子保健型支援拠点としてもより機能が発揮しやすくなったと感じた。また、保健師等による全件面接を目標に取り組んだところ、面接率は平成 28 年度の 3%が平成 29 年度は 33. 2%になったことは、とても評価できる。周知や面接など職員の努力にも感謝したい。今後、おたかの森市民窓口センターでも面接実施ができるとより全件面接に近づけると思う。この保健センターでの取組は、「母になるなら流山」というキャッチコピーで移り住んでくれた新住民にも安心して貰える効果が期待できるので、更なる母子保健・育児支援・虐待防止の仕組み構築に対し、今後も注視していきたい。

(3) なかれやま子育てコミュニティなこっこ

●主な内容

・説明者：・代表 田中由美氏、・青木八重子氏

■子育てを共に楽しむ・考える・助け合う

・Na k o c c o (なこっこ) は千葉県流山市を拠点として、「子育てを共に楽しむ・考える・助け合う」ことを目的に活動している、赤ちゃん～小学生のママたちによる子育て支援団体である。

・子どもはとても可愛いんだけど、子育ては戸惑うことが多い。特に初めての育児は、授乳に夜泣きに離乳食と、次々にやってくる慣れないコトに肩の力が入り過ぎて息切れ寸前ということもある。

・なこっこは、特に孤立しない子育て(孤育て)を解消したいと考えている。

・流山市は「ここが初めての子育ての地」となる世帯も多く、知り合いがほとんどいない方も少なくない。子育てに行き詰らない為には、支えてくれる家族や仲間、相談できる施設や専門家などの地域とつながるネットワークを持つことが大切である。

・なこっこの活動の中心は妊娠期から就学前の子供を持つ家庭へのサポート&エンパワーメント(組織の構成員 1 人 1 人が力をつけるという意味)である。妊娠期から子育てをサポートする「お産C a f e」、産後 6 カ月までのママ向けに「新米ママ講座」等を開催する他、地域とつながる様々なイベントを随時開催している。

・2007 年に任意団体として発足し、2011 年 11 月からは特定非営利活動法人(NPO 法人)として多くの方のご協力を得て、さらに前向きに、責任を持って活動を広げている。

■お産C a f e (妊娠期)

・妊娠期から子育てをサポートする取組みとして月 1 回、助産師さんを交えてティータイムを楽しむ「お産C a f e」をオープンしている。

・お産や産後をイメージするワークショップ、悩み相談、ストレッチにノンカフェインやデカフェのお飲物とお茶でおもてなしをしている。

・「赤ちゃん産まれました！」と連れて来るママも増え、和やかに開催している。経産婦にも好評である。

■産前・産後の子育て力アップセミナー (妊娠期)

・家事や育児に関心の高い男性も増え、イクメンなんていう言葉まで流行した。しかし、まだまだ夫婦で参加して妊娠や出産、産後のことをお互いにわかり合う機会はなかなかない。これを機に、是非夫婦で妊娠・出産・産後のことを話し合っで最強タッグでベビーを迎えてもらいたい！沐浴や家事を教えるイクメン講座とは一味違う、夫婦の距離がグッと近くなる企画である。

■新米ママ講座 (乳児期)

・産後1～6カ月のママを対象とした全2回のイベント。第1回は助産師を交えたワークショップや産後の育児や生活に関する相談などに加え、「新米ママ弁当」を用意し、保育補助スタッフを入れてゆっくりランチ交流会を行っている。赤ちゃんと一緒ににお出かけできる場所の紹介は地元のママスタッフにお任せ！

・第2回は赤ちゃんが5,6カ月になると気になってくる「離乳食」に関するワークショップを行っている。参加者の交流を目的としたティータイムも用意している。

■N a k o c c o B a b y (乳児期)

・生後1カ月～1歳半くらいのベビーちゃんひろばです。季節を楽しむ工作をしたり、手遊びやわらべ歌などを元保育士のママが紹介している。

・地元の先輩ママが見守りスタッフとしているので、気兼ねなく参加者同士でおしゃべりを楽しんだり、地元の情報や子育ての悩みをシェアしたりと、お気軽にお越しください。

■子どもの防犯力アップスキルアップセミナー (幼児期)

・NPO法人さいたまNPOセンターとの協働事業。子育て支援のインストラクターと施設等の教諭、保護者、親、子どもの絆を強め、「どの子ども地域の大切な子」として見守る地域の絆をつくり、犯罪被害を防止することを目的として、次年度に新1年生となる年長組の園児を対象に実施している。

■南流山ハロウィンパレード (幼児期)

・英語サークルを主催していたメンバーの「流山でハロウィンパレードをやってみたい！！」の一声で2009年よりスタート。地域の英語教室や商店・公共施設と協働して開催するこのイベントは、地域に子育て応援の根をはる大事なイベントである。100組以上の家族が参加し、子どもも大人も仮装して楽しんでいる。「今年もそろそろ？」と開催を毎年心待ちにしてくれる人たちも年々増え盛り上がっている。

■事前質問事項

Q①新米ママ講座、お産カフェ、なこっこポコ、N a k o c c o B a b y と多岐に渡る活動を行っているが、各々の会に参加される保護者と接する中で子育て家庭が持つ悩みなどの象徴的な例などを教えて欲しい。(子育て中の方々がどのようなことに悩んでいるのか具体的なケースを通じて知りたい)

A①・なこっこは、おたかの森ファミリーサポートセンターの運営に関わっている。

・新米ママ講座は10年前、地方から転入した際、知り合いがいなかったが、助産師さんと知り合ったことがきっかけで、この講座を始めた。当初はサークル活動であったが、徐々に市民活動になってきた。

・病院や保健センターには相談しにくいことも、「なこっこ」に相談されたケースもある。若い親の中には今まで子供を抱いたことがないという人もいた。

・公園デビューは子どもが歩くようになってからであるが、初めて会う人の中に溶け込むのは難しくノイローゼになる方もいる。子育ての知識がなく、インターネットで調べるような時代でもある。

・市の配布物の文言には、「何々しましょう、何々していますか」が多い。毎日何かをしなくては行けないと迫られるようである。

・他の子どもと比べられるとつらい。のびのび子育てできない。まじめな人は気晴らしもできない。

Q②長きに渡って活動されているが、活動を開始された当初と現在、子育て世代が持つ課題は変化したか。変わったところと変わらない所を教えてください。

A②・世の中の流れに追いついていけない人や孤独感に陥ってしまった人でも子育てできるように活動してきている。

- ・流山市は共稼ぎが増え、地域で子育てするケースが減ってきている。
- ・ファミリーサポートでも朝の7時に子どもを預け、夜の9時まで14時間預ける方もいる。子どもにも負担がかかっているだろう。
- ・親も子育ての仕方を選択しているようで、選択肢が少ないという問題もある。

Q③流山市は「民でできることは民で、公でできることは公で」というスタンスであるが、乳幼児期の子育てについて、「ながれやま子育てコミュニティなこっこ」と流山市との連携は出来ているのか。さらに流山市にもっとコミット（責任の伴う約束・目標・目的に対し積極的に関わる、責任を持って引き受ける）して欲しいという点があれば聞きたい。

A③・公的機関となこっこに相談できるとしたらどちらに相談するか、チラシのデザインや接遇を見て貰えればわかると思う。

・なこっこは発達障害を抱えている方や様々な方を支援している。ファミリーサポートセンター以外はボランティアである。

・なこっこが行っている事業は本来行政が行うべきであると考え。このまま民間任せにして良いのか？

・子育て支援のグランドデザインが必要である。

Q④多世代交流のニーズが市民から高まっているが、シニアと子育て世代が連携する時の難しさについて、これまでの活動を通じて感じたことがあれば伺いたい。

A④・あるシンポジウムで、高齢者側にも配慮が足りない人がいた。そんな状況では世代間交流もスムーズにいかないこともある。

Q⑤その他、流山の課題

A⑤・流山市の職員には、良い事例を調査し、研修等を受けて欲しい。

・保育の整備率は上がっているが、質が問題である。

・今までに、困った方の話を聞いて、一晩背中を摩ってあげたことも有る。午前1時に電話がかかって来ても命の電話は切れない。行政は何をしてくれるのか。話を聞いてあげてスッキリしたというケースもあった。

・行政はもっとNPO法人と力を合わせる必要がある。毎朝、自転車の前後にお子さんを載せたお母さんがいる。学童や保育園を身近に感じながら行政を動かしていくのが議員の仕事ではないか。

・文京区に「こまじいのうち」という地域みんなの「居間」という居場所がある。ここは赤ちゃんからお年寄りまでが集まれる場所である。

●所感

「なこっこ」は「子育てを共に楽しむ・考える・助け合う」ことを目的に活動している、赤ちゃん～小学生のママたちによる子育て支援団体である。今回の視察では、今まで行政の支援が届きにくいところで、悩みや課題を抱えてきた子育て世帯の方々を支えてきた現場の生の声を拝聴することができた。

子育ての課題は多岐にわたり、かつ重層的な支援が必要であると考え。より良い子育て環境を見出していくために、今後、更なる現状把握を行い、もっと活発に地域の課題を吸い上げながら実情を知るよう努め、調査研究を行いたい。